

現在の標準服



現在の標準服制定時の時代と背景

一般的には制服といっているが、東京都では標準服といっている。昭和時代には学生運動が盛んであり、特に戦時体制や独裁国家などで行われていた物資の節約や意識の共有などを目的とした服装の統制と学校の制服を結び付ける考え方や服装の自由を求める声があったことから、東京都では制服ではなく「標準服」とする動きが起きた。

府中市でも昭和50年代前半には府中第三中学校で一部の保護者や生徒による服装自由化運動が起きた。しかし、大半の保護者、生徒は制服を求めており、私服で登校する生徒は一部の生徒会役員など数名にとどまった。

本校創立当時の昭和49年の公立学校の標準服は詰襟、セーラー服、またはジャンパースカートが一般的であった。本校は当時の新たな流れにあわせて、標準服としてブレザーを採用した。当時のブレザー型標準服は紺色または灰色が主流であった。その後、昭和50年に入ると、こげ茶色のブレザーや青のブレザーに黄色のネクタイ、詰襟が学生服でも色を灰色、紺色、白にするなど個性的な色やスタイルが出始めた。中には私服を標準とした学校もあった。

標準服を新しくするコンセプトは？

創立50周年の節目の記念事業にしたい

他校で標準服を新しくする動きがあるから、その流行にのるのではなく、府中八中の50周年の節目の事業のひとつとして、この事業を行いたい。そのため、学校が主体になるが、この事業には、「スクール・コミュニティ協議会」「PTA」「同窓会」などが関係させていく。（教育目標改訂と同じ）

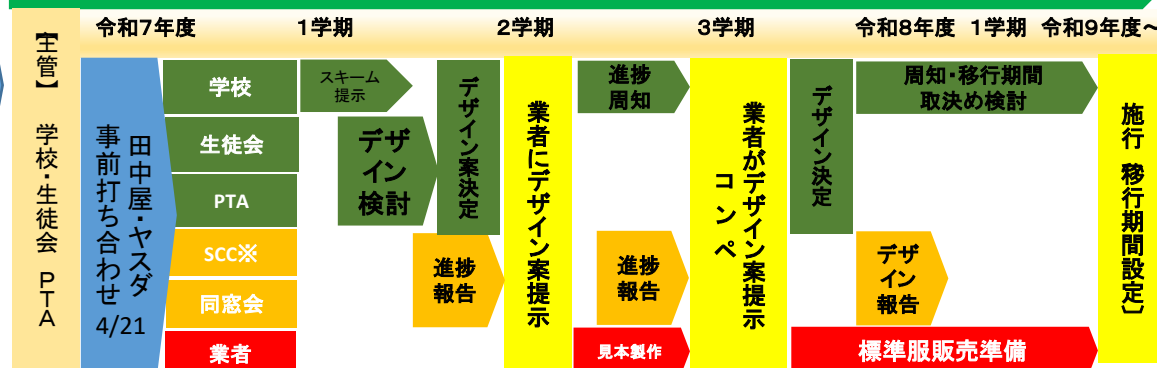
創立50周年に在籍した生徒と教職員、関係者の思い出に残る事業にしたい

これから制定における取組を行うので、現在の在校生は新しい標準服を着ることはない。しかし、在校生にとって府中八中の歴史の流れに残る事業になるよう、特に生徒会役員を中心として全校生徒が関わったという意識をもてるようにしたい。

生徒、教職員、保護者、地域の思いに応えたい

標準服を新しくしたいという声は多くは挙がっていないが、創立50周年を機会に新しい標準服に変えたらどうかという意見はある。新しい標準服のスタイル、色、デザイン、着用の仕方の基本などに生徒、教職員、保護者、地域の思いを反映させたい。

新しい標準服制定に向けての工程（※スクール・コミュニティ協議会）



現在の標準服案



府中八中では、生徒会が主体で標準服案を作成しました。昨年度は生徒が企画書、標準服デザインを業者に提案し、業者が生徒の企画とデザインを基に標準服のプレゼンテーションを行い、コンペにより業者を決定しました。コンペには生徒、PTA等が参加しました。各業者からは、このように生徒主体で企画で行う中学校は全国的にも稀であり、企画力、デザイン力の高い本校の生徒にぜひ、当社に入社してほしい、という要請がありました。